

景観フォーラム

巻頭言

あけましておめでとうございます。今年はどのような年になるかをいろいろ考えておりますと、下記のようなビックニュースが飛び込んでまいりました。

経団連の中西宏明会長がこれからの原発政策の推進はしたくないと表明しました。原発はコストがかかり過ぎ、事業として成り立たないというのが本音でしょう。その理由は「国民が反対するものは作れない。全員が反対するものをエネルギー業者や日立といったベンダー（設備納入業者）が無理に作ることは民主国家ではない」としております。そして「国民が反対するものをつくるにはどうしたらいいのか。真剣に一般公開の討論をすべきだと思う」と呼び掛けております。この表明は現政権のエネルギー政策を真っ向から否定したものでしょう。

この狭い国土の中に54機もの原発があり、ひとたび大地震が生じ原発が爆発したとするなら、この国土は生物が生きてはいけない土地になることは福島をもってして明らかです。普通の常識ある人々ならこのことはみな理解しておりますが、狭い利害関係のしがらみの中で、あつという間に悪魔のような原発を常識顔で推進してきました。原発は安全ですよ、という安全神話が嘘であることがチェルノブイリで分かっていたはずですが、経済効率から見て発電所は消費地にあるべきですが、電力の消費地はすべて首都圏にあるという福島原発の爆発という取り返しのつかない事故を経て、やっと日本の首脳陣も行動に出たということでしょう。

人類の発展というものは虚偽のもとになされると不可能になるというのは歴史が証明しております。何故人類は真実を求めるのかということ、この本来の発展という果実を求めるからでしょう。私たちがより良い景観を求め、そのためのいろいろな活動を実施するのもまさにこの原理に基づいていると確信しております。この経団連の表明により本来の日本の正しい発展がなされることを祈る次第です。本年もよろしくお願い申し上げます。

NPO法人日本景観フォーラム理事長 齊藤全彦

<日本景観フォーラム2018年度（平成30年度）年間スケジュール>

*2018年度とは2018年4月1日⇒2019年3月31日のことです。

2018年

- 4月24日（火）第1回理事会・総会 於JICA研究所
- 5月23日（水）**第1回景観研究会（香取市佐原の景観）** 於JICA研究所
- 6月16日（土）**第1回景観まちあるき（香取市佐原）**
- 7月24日（火）**第2回景観研究会（歴史的文化的景観まちづくり）** 於JICA研究所
- 8月 夏休み（景観研究自由参加）or 一泊二日で遠方の町並み見学会など？
- 9月25日（火）**第3回景観研究会：桐生市の景観** 於JICA研究所
- 10月27日（土）**第2回景観まちあるき（桐生市）**
- 11月14日（水）第2回理事会 於JICA研究所
- 12月19日（木）忘年会（赤羽駅前飲み屋街）

2019年

- 1月25日（金）**第3回景観まちあるき：神社景観（神田明神）**
- 2月14日（木）**第4回景観研究会：巣鴨商店街の景観** 於JICA研究所
- 3月23日（土）**第4回景観まちあるき（巣鴨商店街）**

「風景」と「風景画」 閑話一題

2019年正月 南口清二

風景と景観、景色、場景はどう違うのか？

風景画という。景色画とはなぜ言わないのか。「絵のような景色」とはいう。語る立場の違いが、様々な解釈と言葉が展開されるのだ。

「画」とは何か？世界の美術史、日本の美術史をすべて語ったとしても答は出ないだろう。現代美術の混迷がそのまま出るだけなのだ。

しかし21世紀のこの時代に、少なくとも創作活動を展開することを人生の課題としているものとして、結論ではなく問題意識としての方向性を語る責任は当然ある。

「風景画」。風景それ自身が目的としての表現行為がなかった時代があった。

ラファエロの風景画を見たことがあるだろうか。ミケランジェロは？

それは人間精神こそが、もっとも輝かしく燃えていた時代。ルネッサンス。

ダ・ヴィンチは肖像画の背景として、自然の有り様を科学者の視点でスケッチはした。

17世紀カラバッジョは風景画を描いたのだろうか。究極な人間存在を、光と陰で表現しようとした作家。

作家としてのテーマ、主題が目的が違うのだ。

人類が最も初期の表現行為として「ラスコーの洞窟壁画」がある。

呪術的な意図のみからの解釈でなく、自然への驚異への意志であり、感性的な現実の創造として語る時、それは芸術の誕生といえる。(バタイユ)

「芸術」としての「絵画」が見えてくる。

絵画とは『感性的な現実の創造』なのだ。

古代の「風景画」と言えるものに、ローマの国立美術館に『リヴィア家の果樹園壁画』がある。中世の天空からの視点ではなく、樹々の茂みの中に立ち入るように、画面空間を花々、樹々、葉で埋めていく。自然への愛を素直に見つめて描ききる。

実に美しい壁画である。



ラスコーの洞窟壁画

日本では、「景色のいい茶碗」という言い方をする。移ろい変化する感覚として風景をとらえてきた。

長谷川等伯『松林図』 本画ではなく、デッサンかもしれないといわれるが、その鋭い気配、空間、生命感を激しいタッチで一気に描いてゆく。日本の最高傑作だ。



松林図屏風 (左隻)



松林図屏風 (右隻)

いわゆる「写実」なるものからはるか遠い。

夏目漱石は『三四郎』で「深見さんの水彩は普通の水彩のつもりで見ちゃいけませんよ」と原口から美禰子に告げさせる。深見さんとした〈浅井忠の気韻な画風〉を語らせる。

江戸時代の文人画たちこそ「写生」に対して「気韻」を見ていた。池大雅。風景画とは現実世界としての風景をただ描くことでなかった。

西洋で風景画がさかんに描かれるようになったのは、17世紀からといえる。

15,16世紀、宗教画や肖像画としてのフランドルの「リアリズム」は、17世紀、木立や運河の日常的な風景画として発揮されてくる。

クロード・ローラン（1600年生）は生涯ローマ、イタリアを離れず風景画を描いた。彼のテーマは樹木であり、建物・水・空、そしてイタリアの光を常に一定のスタイルで描いたが、現実特定の場所ではない。現実の風景の中から、好みの要素を抽出し、組み合わせて「理想的な風景」を作ったのだ。

ターナーはロランの画について「たんに主題を伴う風景画を描いて満足したのではなく、自然の部分を数多く熱心にスケッチし、その断片で自然の力を捉えたのだ」と語り（1811年）、ジョン・コンスタブルは模写をして、「これは一生の仕事に役立つだろう」と語ったという。（1823年）

風景が心の表現の媒体となった。一方はクロード・ロランとしてのデカルト的秩序であり、江戸の大雅には空想の自発性があった。《加藤周一 山中人閑話より》

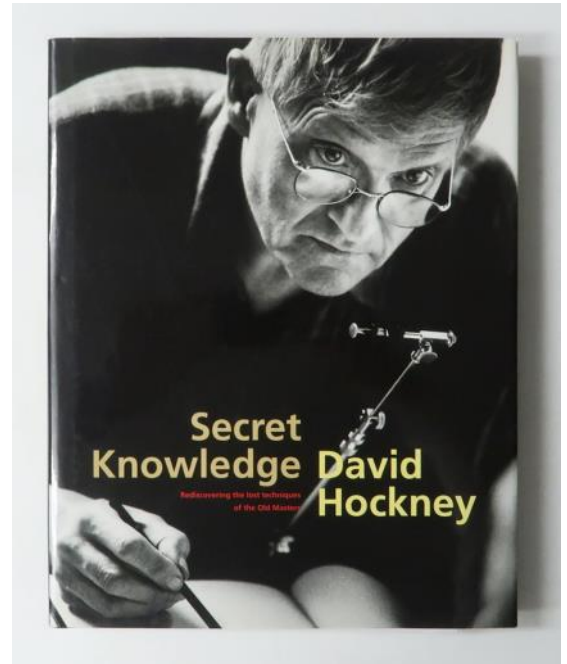
デヴィッド・ホックニーの『秘密の知識』は、興味深い問題を提示している。

フェルメールのカメラ・オブスクーラ使用が証拠立てられた17世紀よりはるか以前に画家たちは光学機器を使用していたという。

21世紀、人々は画像を日常的に送りあう。コミュニケーションの最大的手段として。

その画像は、事実だろうが真実はどこにはない。
画家たちは、風景の中に『私の真実』を探した。
『私の風景』を求めた。

「風景」と「風景画」を語ることは、『現実』そのものをどう見るのか、現在、未来、今日の氾濫する『映像』への視野への立ち位置こそが本質論として問われてくる。



デヴィッド・ホックニー「秘密の知識」

<LFJブックレビュー60>

『大拙』 安藤礼二著 講談社 2018年刊

ある外国人に「日本近代思想の創立者は誰ですか?」と尋ねられたとしよう。福沢諭吉(1835 - 1901)や夏目漱石(1867 - 1916)の名を挙げる人が多い中、鈴木大拙(1870 - 1966)の名を示す人は何人いるだろうか。彼の名を世界に知らしめた処女出版ともいえる“Outlines of Mahayana Buddhism”(『大乘仏教概論』として日本語訳がなされている)はなんと1907年にロンドンで出版されている。そして最晩年には英文増補版として『禅と日本文化』が1955年に出されている。大拙の思想を説明するのは難しいが、概観的に言えば、仏教という思想を英語と日本語で考え、現代20世紀において仏教がいかにあるか、また、あるべきかを日本語と英語で考察したのではないかと思われる。西洋近代思想におけるキリスト教と同等に、日本近代思想における仏教という思想は必ずや超克しなければならない思惟体系であることは言うまでもない。しかし、その体系に正面から立ち向かった思想家は少なく、英語と日本語というバイリンガルで思想活動を行った人物はこの鈴木大拙をおいてほかはないだろう。

鈴木大拙こと本名鈴木貞太郎はもう一人の日本近代思想家である西田幾多郎(1870 - 1945)と同郷出身で青春時代を共に過ごした仲であった。当然、両者の思想はその生涯を通じ強く影響しあい、日本近代思想の峰々はこの両者の思想を考察することによって、その根幹が明確になるであろう。西田が西洋思想を日本近代思想の中にいかに位置づけるのかに呻吟した一方、仏教を通じて日本思想が近代においてどのように生きられるかに一生をかけたのが鈴木大拙であった。

さて、同時期に世界に向けて日本思想を紹介した人物を挙げれば、新渡戸稲造(1862 - 1933)の『武士道』1899年(原題: BUSHIDO, THE SOUL OF JAPAN)、岡倉覚三(1863 - 1913)の『茶の本』1906年(原題: THE BOOK OF TEA)、そして内村鑑三(1861 - 1930)の『代表的日本人』1908年(原題: Representative Men of Japan)が次々と出版され、現代でも日本を知ろうとする知的外国人は必ずやこれらの書籍をひも解くという。大拙の出版もこれらの日本人による英文での出版の大きな流れの一つと考えられるし、これらの書籍は近代日本思想の山脈の峰々を形造っていることは間違いがない。

それでは、大拙の主著は何かと問えば中々判然としない。それは、禅という思想の本質にかかわるのではないか。思想を言葉をもってしてなされるという立場から、禅を思想とのみ扱ってしまうのは行き過ぎとでもいうような、西洋思想とは全く異なる捉え方が必要とされる。禅が東洋思想として明確に扱われるのにはより時間がかかるであろうし、その時にこそ鈴木大拙の思想がより豊かな山脈として立ち現れるのではないだろうか。安藤礼二のこの評論はその出発点をなすのではないかと思われるし、「仏教とキリスト教は源泉を同じくしている」という指摘をもってしても、今後大拙思想がより深く論じられるのは間違いのないであろう。恐らく、宗教という人類の創造した最も大きな想像力は両者共ども同じ淵源にあるのではないかと思われる。(齊藤全彦)



天地玄黄 ⑱ 「AIを用いた歴史的な景観の評価」

今回の天地玄黄では、今日話題となっている人工知能と景観を関連づける記事をご紹介します。人間の主観なく、特定のルールに基づいて評価される景観はどのようなものなのか、皆様に広く知っていただけたらと思います。

また、この分野は金融・旅行業等にも使われているものになりますので、今後の発展のなかで、建築や景観に人工知能が当たり前のように使われる日はそう遠くないのかもしれません。

はじめに

近年は、人工知能（Artificial Intelligence、以下AI）が大きく注目され、様々な場面で活用されてきています。AIがどのようなものか簡単に説明すると、人間の知的能力を機械で実現しようとするものです。

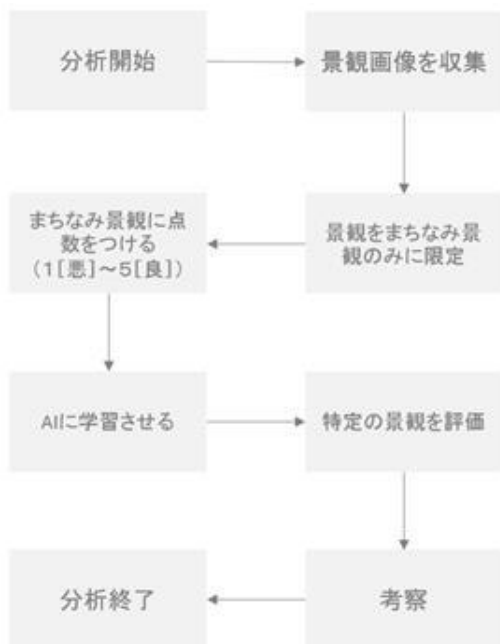
AIはこれまで、ある音声为谁の発したものなのか判断したり、外国語の翻訳や画像に写っているものを特定することに応用されてきています。将棋や囲碁でAIがトッププロに勝利をあげたことは多くのメディアで取り上げられ、現在（2018年）において人々から最も関心を集めており発展が著しい研究テーマの一つとなっています。

今回の分析では、景観評価に用いることが可能なAIを開発したいと思います。絵画や音楽においても、専門家と一般人の評価するときの視点は異なると多くの研究で指摘されています。

専門家の視点から景観を評価できるAIを開発することで、簡易的にそれぞれのまちの景観の課題を見つけることなどに応用できるかもしれません。



分析方法



データは、2017年にまちなみとすまい研究会が調査を行った飛騨地方（高山市、飛騨市（旧古川町）、白川村）において収集した画像3000枚を用いました。景観の画像はまちなみのみでなく自然景観の画像も多くあったため建物や人工物が映っているまちなみ景観に限定（2612枚）しました。

それぞれのまちなみ景観をまちなみとすまい研究会のメンバーが5段階で評価しました。そして、その画像データと評価の点数をAIに学習させました。この学習を通じて、AIは画像の特徴（色、形、配置など）によって与える点数を判断できるようになります。

最後に、まちなみとすまい研究会が2017年に調査を行った飛騨地方の周辺地域である北陸東海地方と、まちなみとすまい研究会の拠点がある関東甲信越地方における重要伝統的建造物群保存地区（国が主導して保存をはかる、価値の高い歴史的な集落・町並み）の画像をAIで判定し、景観の良さを点数化しました。

例えば、1点 - 5点の景観として評価された写真は以下の通りです。

1点の写真



2点の写真



3点の写真



4点の写真



5点の写真





プログラムはPythonで作成し、機械学習のライブラリとして Googleが開発したTensorFlowを用いました。

対象とする重要伝統的建造物群保存地区は次の31地区（飛騨地方にある地区は、学習データに用いているため排除）です：
 桜川市真壁（茨城）・栃木市嘉右衛門町（栃木）・桐生新町（群馬）・中之条町六合赤岩（群馬）・川越市川越（埼玉）・香取市佐原（千葉）・佐渡市宿根木（新潟）・早川町赤沢（山梨）・塩尻市奈良井（長野）・塩尻市木曾平沢（長野）・東御市海野宿（長野）・南木曾町妻籠宿（長野）・白馬村青鬼（長野）・豊田市足助（愛知）・亀山市関宿（三重）・恵那市岩村（岐阜）・美濃市（岐阜）・郡上市郡上八幡（岐阜）・高山市下二之町大新町（岐阜）・高岡市山町筋（富山）・高岡市金屋町（富山）・金沢市東山ひがし（石川）・金沢市主計町（石川）・金沢市卯辰山麓（石川）・金沢市寺町台（石川）・若狭町熊川宿（福井）・加賀市橋立（石川）・加賀市東谷（石川）・輪島市黒島（石川）・白山市白峰（石川）・小浜市西組（福井）。

重要伝統的建造物群保存地区の画像は文献「日本の町並み250 重要伝統的建造物群保存地区を全て収録（山と溪谷社、2013年）」に掲載されている画像を各地区1枚ずつ用いました。

景観の点数化の手順としては右表の通りです。特定の画像をAIに見せると次のような出力結果が得られます。

点数	1点	2点	3点	4点	5点
選択確率	0.193	0.138	0.189	0.232	0.248

結果は、特定の画像が1点の景観にあてはまる確率が19.3%であることを示しています。同様に2点の景観である確率は13.8%、3点の景観である確率は18.9%.....ということになります。

（点数）×（確率）の和を計算して、この画像の景観の得点の期待値を算出してみましょう。期待値は以下のようにになりました。

$$1 \times 0.193 + 2 \times 13.8 + 3 \times 18.9 + 4 \times 23.2 + 5 \times 24.8 = 3.20 \text{点}$$

このように、画像の景観得点の期待値を求め、これを景観の点数とし各景観を評価しました。

結果と考察

順位	地区名	1点	2点	3点	4点	5点	期待値
1	豊田市足助	0.045	0.109	0.107	0.230	0.508	4.047
2	早川町赤沢	0.077	0.085	0.147	0.244	0.447	3.890
3	塩尻市奈良井	0.073	0.092	0.142	0.265	0.428	3.883
4	中之条町六合赤岩	0.088	0.079	0.157	0.220	0.457	3.878
5	加賀市加賀東谷	0.082	0.079	0.157044	0.246	0.436	3.875

景観の点数（期待値）の上位5地区を示した結果は左表の通りです。

豊田市足助と桐生市桐生の両地区の写真を見比べてみると、白漆喰で塗り固めた塗籠造りで建物の形状、色彩は類似しているのですが、豊田市足助（期待値4.047）、桐生市桐生（期待値3.039）と、点数には少し差が出ました。

足助の高得点の要因として”路地空間“であることが考えられます。足助、桐生の2つの地区にはともに魅力的で風情のある路地空間がたくさんあるのですが、足助の写真は「路地」を思わせ、桐生の写真は路地というよりは「道路と壁」という印象を与えます。



路地の魅力は自然と奥へと引き込まれてしまう密接した空間、ヒューマンスケールで親密感のある空間であり、明るい表の通り沿いとは異なる「裏」の印象を与えるところにあると思います。足助の写真はそのような「裏」であることを思わせる構図であるのに対し、桐生の写真は「裏」を感じさせません。我々が路地空間を高く評価するように、建物の形状・色彩が同じでも微妙な構図の違いをAIは読み取り、その路地性を高く評価したのではないかと考えられます。路地の魅力は自然と奥へと引き込まれてしまう密接した空間、ヒューマンスケールで親密感のある空間であり、明るい表の通り沿いとは異なる「裏」の印象を与えるところにあると思います。足助の写真はそのような「裏」であることを思わせる構図であるのに対し、桐生の写真は「裏」を感じさせません。我々が路地空間を高く評価するように、建物の形状・色彩が同じでも微妙な構図の違いをAIは読み取り、その路地性を高く評価したのではないかと考えられます。

参考画像：

-豊田市足助：<http://asuke.info/gallery/entry-158.html>

-桐生市桐生：<http://www.city.kiryu.lg.jp/kankou/spot/denken/index.html>

また、上位に評価された地区の景観の画像の特徴として、建物や街路などの人工の構造物と、森や植栽などの自然が絶妙なバランスで調和していることが観察できました。

早川町赤沢や塩尻市奈良井などの上位の地区は、豊かな自然に囲まれた地域や植栽の整備がしっかりなされている景観となっており、人と自然が共生している印象を受けます。上位にならなかった地区では、歴史的な建造物を高い水準で保存しており、優れた景観を創出していましたが、緑の量が少ない印象を受けました。緑地には、蒸散効果による過度な温度上昇の抑制や人々をリラックスさせる効果があります。



参考画像：

-早川町赤沢：http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/hozonchiku/pdf/r1392257_032.pdf

-塩尻市奈良井：http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/hozonchiku/pdf/r1392257_034.pdf

ここから、人がまちなみの景観を評価する際は、建造物等のデザイン面のみでなく、住みやすさ、過ごしやすさなどのまちの機能面も大きく関わっていることが示唆されます。

近年、ヒートアイランド現象や土砂災害対策、火災の延焼防止など、都市の環境問題やリスクなどのネガティブな側面を低減するために緑を増やしていく活動が推進されていますが、建物や街路などの構造物との調和をはかりつつ、緑地を整備・保全していくことは、まちなみの向上といったポジティブな側面にも貢献すると考えられます。まちなみとすまい研究会が高く評価した景観には緑や川など、周辺環境の快適性が向上する要素が含まれているものが多くありました。



▲ まちなみとすまい研究会による評価が5点であった景観

今回の分析の課題として、データの数や景観の種類が少ないがあります。分析に用いたデータはまちなみとすまい研究会が調査を行った飛騨地方において収集した画像であり、それ以外の地域のデータはありませんでした。そのため、近現代的な景観など、データの景観と大きく異なるタイプの景観は評価することが少々困難でした。

また、重要伝統的建造物群保存地区の景観の評価をする際は、画像は1枚のみしか使っていないため、まちなみ全体を評価できていない課題がありました。

今回の分析の課題として、データの数や景観の種類が少ないがあります。分析に用いたデータはまちなみとすまい研究会が調査を行った飛騨地方において収集した画像であり、それ以外の地域のデータはありませんでした。そのため、近現代的な景観など、データの景観と大きく異なるタイプの景観は評価することが少々困難でした。

また、重要伝統的建造物群保存地区の景観の評価をする際は、画像は1枚のみしか使っていないため、まちなみ全体を評価できていない課題がありました。

おわりに

今回の分析では、私たち、まちなみとすまい研究会メンバーの景観評価をもとに、AIを開発し、いくつかの景観をAIによって評価してみました。今回の分析では、学習できるデータが少なく、AIがしっかり評価できていない部分もいくらか見られましたが、データを蓄積することで、高い精度で景観評価をするAIを開発していくことができる可能性を感じられました。将来的には、AIを用いて全国のまちなみの課題を見つけ出していく時代も来るかもしれません。

企画・分析・執筆 | 對間昌宏 ・水谷京弥
分析協力 | 森谷安寿
調査協力・まちなみ評価 | 2017年度まちなみとすまい研究会

参考

- ・開発したAIのテストデータ（総データの1割）に対する正答率（正しく分類した割合）は約90%でした。
- ・TensorFlowの参考ページ（英語）です：<https://www.tensorflow.org/tutorials/>

転載元

まちなみとすまい | 住宅・すまいWeb

<http://www.jutaku-sumai.jp/town/ai/ai1.htm>

※なお、本文内容は意味の取り違えの無いよう、そのまま引用させていただいております。

〒150-0031

東京都渋谷区桜丘町14-5-502

TEL：03(3780)3814

FAX：03(6379)6681

E-mail：info@keikan-forum.com

URL：http://www.keikan-forum.org

